

シニア犬の健康診断での検査:

健康診断のベーシック検査に加えて、中高齢期の病気リスクに合わせた追加検査で、より詳細な情報を得ることが大切です。

ベーシック検査:

年齢にかかわらず実施



血液化学検査: 臓器・器官系の状態を調べる血液検査。犬は腎臓病の検査項目であるIDEXX SDMAを含む18項目が世界の犬用健康診断のスタンダードとされています。

完全血球計算: 赤血球や白血球の数を調べ、貧血や炎症、感染症の有無などを調べる検査。その他にも尿検査、糞便検査などを一般的に組み合わせます。

追加検査:

シニア犬や症状のある子に



心臓病や内分泌疾患など、特定の疾患を調べる検査項目を追加することで病気の発症を早期に発見することができます。詳しくは中面をご覧ください。

7歳からの健康診断

元気に見えても中高齢期。
大切な検査をご存じですか？

異常や変化のサインを早期に見つけるために

7歳からは1年に2回の
健康診断



長くすこやかに一緒に過ごすために 元気なときから、動物病院で定期的な健康診断を!

動物病院の検査情報サイト

CareMyPet



www.idexxjp.com/cmp



IDEXX

アイデックス ラボラトリーズは、動物臨床検査の世界的なリーディングカンパニーです。 www.idexx.co.jp

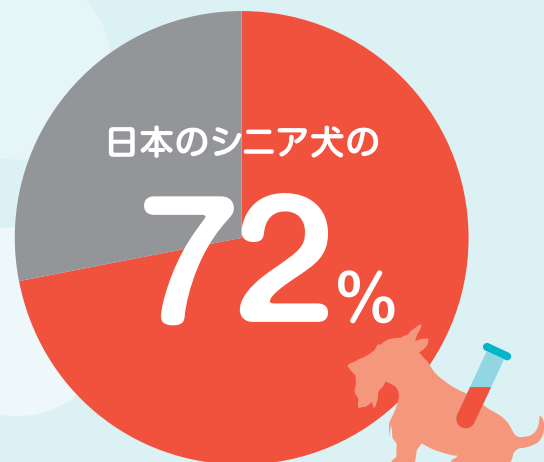
ケアマイペットは、動物臨床検査の世界的なリーディングカンパニーIDEXXがご提供します。

まだまだ若い。 そう見えていませんか？

ワンちゃんは7歳頃から中高齢期に入り、人間と同様に、腎臓病、心臓病、内分泌疾患、腫瘍など様々な病気のリスクが上昇します。

健康診断の血液化学ベーシック検査

参考基準範囲外が1項目以上検出された
7歳以上のシニア犬の割合



データ：全国 動物病院

腎臓のバイオマーカー IDEXX SDMAを含む血液化学ベーシック検査

* アイデックス検査サービスが2020年2月～6月の期間に全国の動物病院から受託した健康診断の血液化学検査結果

外から見えない異常の兆しを早め に発見して、 健康寿命を延ばしてあげましょう。



腎臓病

犬では一生のうち10頭に1頭が腎臓病になると考えられてきましたが、日本全国の動物病院における健康診断では中高齢犬の5頭に1頭*1が腎臓病疑いとして検出されています。

*1. 8歳以上の犬133,852頭を母数とする

IDEXX SDMA検査

健康診断のベーシック検査項目の一つで、国際的な慢性腎臓病ガイドラインが採用している検査。血清クレアチニン検査と比べて犬で**平均9.8ヵ月早く慢性腎臓病を検出**できたという報告があります。



心臓病

一般的に犬の心臓病は7歳ぐらいから増加します。小型・中型犬では加齢に伴って発症することが多いため、特に咳や心臓の雑音を指摘された場合などは検査が必要です。

Cardiopet proBNP 検査

心筋に負担がかかると分泌されるホルモンを測定する血液検査。数値で心臓の状態把握をサポートし、画像検査の必要性を判断する目安となります。この検査を受けた犬・猫の約45%*2が、精査の対象となる高値を示したという日本の健診データもあります。

*2. アイデックス検査サービス 2020年春健診データ



甲状腺機能低下症

特に中年以降の犬にみられる内分泌疾患。体の機能を活発にする甲状腺ホルモンが不足するために様々な症状を示します。元気がなくなる、毛並みが悪くなるなど、老化による症状と間違われやすいため、疑わしい症状がある場合は早めの検査が大切です。

T4検査 | FT4検査 | cTSH検査

甲状腺ホルモンが正常に分泌されているかどうかを調べる血液検査。甲状腺機能低下症の確定診断に必要です。

獣医師は検査結果やその他の所見に基づき総合的に判断します。診断や治療については先生にお尋ねください。